

たちばなの

あけみ

# わたしが橘曙覧です

名 前／橘曙覧

性 別／男

職 業／歌人・国学者

代表作／独楽吟、堀名銀山連作8首

家 族／妻・子供3人

人がら／おだやかで欲がない  
読書家で知識が豊富  
衣服や住まいには全くこだわらない  
ちょっと風変わりな人

好きな食べ物／饅頭・焼き豆腐など



# 曙覧の一生を たどってみましょう

橘曙覧は江戸時代の終わりごろに生きた人物です。  
歌人・国学者として活躍し、数多くの歌を残しました。  
では、どのような一生だったのでしょうか。  
たどってみましょう。

1歳(1812)

文化9年5月、現在の福井市  
つくもの文具商・正玄家に  
生まれる。名は五三郎。



2歳  
(1813)

母が亡くなり、府中  
(現在の越前市)の母の実家  
にあずけられる

15歳  
(1826)

父が亡くなる

21歳  
(1832)

直子と  
結婚する

25歳  
(1836)

長女が生まれるが  
間もなく死亡

26歳  
(1837)

二女が生まれるが  
間もなく死亡

28歳  
(1839)

家業を弟にゆずって  
足羽山に住み  
「黄金舎」と名づける

30歳  
(1841)

三女・健子が  
生まれる

33歳  
(1844)

病気(天然痘)で  
健子が亡くなる

33歳  
(1844)

飛騨高山の  
田中大秀に入門して  
国学を学ぶ

34歳  
(1845)

長男・今滋が  
生まれる

36歳  
(1847)

二男・菊蔵が  
生まれる

37歳  
(1848)

足羽山の黄金舎から  
三橋町(現在の福井市照手2丁目)  
に引っ越し「藁屋」と  
名づける



39歳  
(1850)

三男・早成が  
生まれる

43歳  
(1854)

名前を曙覧に  
改める

47歳  
(1858)

万葉集の秀歌  
36首を選び、福井藩主  
松平春嶽に送る

50歳  
(1861)

伊勢神宮・大坂(阪)・京都を  
1ヵ月以上かけて  
旅行する

54歳  
(1865)

松平春嶽が  
藁屋を訪れる

57歳

(1868年8月28日)

病気で亡くなる



大安禅寺(福井市田ノ谷町)

10年後(1878)

長男の今滋が  
『橘曙覧遺稿 志濃大迦舎歌集』を  
出版する

31年後(1899)

正岡子規に高く評価され  
曙覧の名が全国に知られる

126年後(1994)

天皇皇后両陛下ご訪米のとき  
クリントン大統領が歓迎スピーチで  
独楽吟の一首を用いる

132年後(2000)

足羽山愛宕坂に  
福井市橘曙覧記念文学館が開館する

きのふまで  
吾が衣手にとりすがり  
父よ父よといひてしものを



賤の夫も  
生けるしるしの有りて今日  
君来ましけり 伏せ屋の中に

(※1) いやしい身分の自分でも生きてよかった。  
今日、主君がますますわが家を訪ねて下さった。

※年令は数え年で表しています

# あけみ 曙覧の家族

曙覧



(福井市橋曙覧記念文学館蔵)

妻・直子

三国湊(あわら市)の裕福な家に生まれました。曙覧との貧しい生活を見かねた親戚から別れるようにいわれたこともありましたが、貧しさを苦にせず、曙覧や子供たちのためによく尽くしました。曙覧もそのような妻を思う歌を残しています。

たのしみは機おりたてて新しき  
ころもを縫ひて妻が着する時

長女

二女

三女・健子

長男・今滋

二男・菊蔵

三男・早成

二人の女の子を生まれてすぐに亡くした曙覧は健子をとてかわいがっていました。しかし、4歳の時、天然痘という病気で亡くなってしまいました。

曙覧の旅に同行して、歌もよみました。曙覧が亡くなった後、曙覧の歌をまとめた『志濃夫廼舎歌集』を出版しました。



たのしみはまれに魚煮て見等皆が  
うましうましといひて食ふ時



©石井美千子 2005 JAPAN

子供たちへ残した言葉

『うせいふ(う)なものほしがるな からだだわるな』(「からだだわるな」とは、なまけるなという意味です)

# あけみ 曙覧の交流

曙覧の歌は、多くの人の支えによって生みだされました。  
中でも代表的な3人の人物を紹介します。



## まつ だいらしゅんがく よし なが 松平春嶽(慶永) —— 身分を越えて曙覧を理解

松平春嶽は、幕末の名君といわれた福井藩主です。中根雪江の案内で曙覧の「藁屋」を訪れ、貧しい暮らしの中で学問にはげむ曙覧の姿に感心した春嶽は、「藁屋」を「しのぶの屋」という名前に改めるよう命じました。曙覧とは身分を越えて交流をつづけ、曙覧にならって「独楽吟」をよみ、『たのしめる歌』にまとめています。

なか ね せつ こう

## 中根雪江 —— 春嶽に曙覧を紹介

中根雪江は、春嶽を補佐して福井藩の財政立て直しをすすめた福井藩士です。学問にも熱心で、国学を学ぶことを曙覧にすすめました。また、曙覧の才能を認めて春嶽に紹介し、二人の交流のはしわたしをしました。



かさはら はく おう

## 笠原白翁(良策) —— とともに学問にはげむ仲間

笠原白翁は、天然痘予防のワクチンを福井にもたらした医学者です。曙覧とともに国学の勉強にはげみしました。家族ぐるみでもつきあった親友であり、曙覧の生活を助けた人でもありました。白翁のお墓は曙覧と同じ大安禅寺にあります。



# どく らく ぎん 独楽吟って何？

曙覧のよんだ短歌の中で、「たのしみは」ではじまり「とき」で終わるのが独楽吟です。全部で52首あります。毎日の生活の中の小さな楽しみを、大きな幸せとを感じる曙覧の心が思うままによまれています。

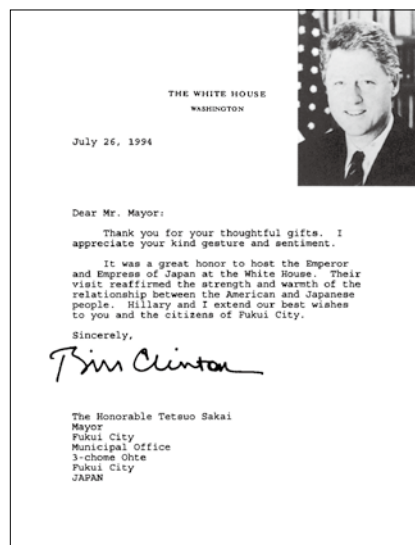
1994年6月13日、天皇皇后両陛下がアメリカを訪れた時、当時のクリントン大統領が歓迎のスピーチに独楽吟の一首を用いました。

It is a pleasure  
When rising in the morning  
I go outside and  
Find a flower that has bloomed  
That was not there yesterday

そして「100年以上も前によまれた歌ですが、その伝える心は時代を越えるものです。新たな日とともに確実に新しい花が咲き、ものごとが進歩し、日米両国民の間に友好をはぐくむのです。」と述べました。



たのしみは 朝おきいでて 昨日まで  
無かりし花の 咲ける見る時



福井市からお礼状を送り、これに対して大統領から返書が届きました。

## 平成独楽吟

曙覧の独楽吟にならい、「たのしみは」で始まり「とき」で終わる短歌を毎年募集しています。これまでに入賞した小中学生の作品を一部ご紹介します。

たのしみは ジャングルジムの てっぺんで  
タヤゲが 手にとるとき ぞうなとき

たのしみは もうしきひやくの ひいばあちゃん  
てぶくろみ たいな 手をさわるとき

たのしみは 新品ノートの 一ページ  
きれいに 折って 書き始めるとき

作ってみよう！

たのしみは

---

---

---

---

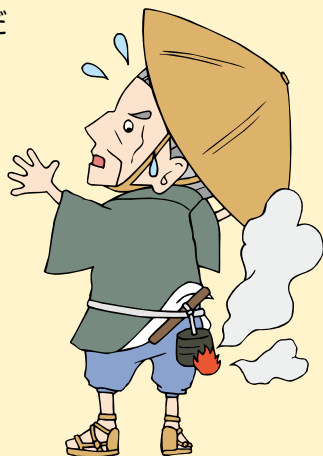
---

とき

## おしりから火が!!

旅先でのこと。たばこをすった後、火を消し忘れたため、帯に下げていたたばこ入れの袋に火が!!

道行く人に注意され、どうにか火を消しました。いっしょに旅をしていた人はいつものうっかりだとあきれ顔だったので、曙覧は「赤い袋がすすけて黒くなったから、再び赤く染めようとして火がついたのだ」という意味の歌を負けじとよんだそうです。



## 曙覧ミイラになる??

暑さには相当まいていたようです。福井藩の奥老女にあてた手紙には「まことに厳しい残暑で、わたしはミイラになってしまいそうです…」と書かれていました。奥老女といえは高い身分の女性。誰にたいしても気取らない人だったようです。



## 京都の町で女装??

これも旅先でのこと。前の日にぬれてしまった着物の代わりに、宿泊先の女主人が近くにあった着物を着せてくれました。

京都の町に出た曙覧は、町で会う人みんなに笑われているような気がしましたが、後ろからついてきた息子の今滋にいわれるまで、自分の着物が「女物」だったことに全く気づかなかったそうです。

## 家の中に竹が生えた!!

曙覧の住まい「藁屋」は、福井藩主 松平春嶽によれば「…壁は落ちかかり、障子はやぶれ、畳はきれ、雨ももるばかり…」だったとか。そしてある日、土間から出てきたものは「竹」。おおらかな曙覧一家に見守られ(?) 竹はどこまで成長したのでしょうか。

(※2) ひざを入れる広さもないほどせまい草屋を竹にとられて、自分は身をすぼめていることよ。

膝ひざ  
に  
い  
る  
る  
ば  
か  
り  
も  
あ  
ら  
ぬ  
草  
屋  
を  
竹  
に  
と  
ら  
れ  
て  
身  
を  
す  
ぼ  
め  
を  
り  
(※2)

# ぶん がく かん 文学館をのぞいてみよう

福井市橘曙覧記念文学館は曙覧が住んだ「<sup>こがねのや</sup>黄金舎」のあった足羽山<sup>あすわ</sup>の愛宕坂にあります。  
クイズのできるパソコンコーナーや曙覧の生涯を紹介する映像コーナーもあります。



庭園には曙覧と健子の親子像が立っています。  
お天気の良い日には、白山の山なみがみえます。



## 館のまわりを歩いてみよう



福井市橘曙覧記念文学館

〒918-8007 福井県福井市足羽 1-6-34  
Tel 0776 (35) 1110 FAX 0776 (33) 3933  
<http://www.fukui-rekimachi.jp/tachibana/>